

## 毛利 陽出春 - 静けさを刻む彫刻家 -

### 【略歴】

- 1938 福岡県久留米市に生まれる
- 1956 佐賀大学美術科入学
- 1965 渡伊、ブレラ美術学校でメッシーナに師事
  - 久留米市芸術振興功労者
  - 西日本短期大学名誉教授

### 【主な活動】

- 1958 熊日総合美術展 奨励賞Ⅰ席
- 1959 熊日総合美術展 熊日社長賞
- 1967 伊・クザノ・ミラニーノ個展
- 1968 伊・ヨーロッパオ・スツリオ・アルテ個展
- 1978 現代九州彫刻展 久留米連合文化会賞
- 1982 現代九州彫刻展 石橋美術館賞
- 2005 中国台州市モニュメント銀賞
- 2008 福岡アジア美術館個展

### 【代表作品】

- 〈モニュメント〉
- 空の門（福岡空港公園）
- 風止姫（二丈町）
- SKYLINE（中国浙江省）〈肖像〉
- 石井光次郎胸像（久留米市）
- 檜橋渡胸像（久留米市）



名古屋市 舞鶴公園 伊題：Beatrice

## 彫刻作品テーマ『生命』

産業の発展とともに、私たちは便利さを求めて都市に集まりました。けれどその暮らしのなかで、空気は汚れ、異常気象が日常となり、自然は静かに、時に激しく、私たちに問いかけています。

毛利陽出春が生み出した新たな生命体「ビオビオ」は、自然の声を代弁する存在。それは「人間も自然の一部」という、静かなメッセージでもあります。

日本には古くから「天地人(てんちじん)」という思想があり、天と地をつなぐ役割を担う人間が、自然と調和し共に生きた日本の風景は、とても美しいものでした。

もう一度その美しい風土を取り戻したい—柔らかな光を放つ大理石の「ビオビオ」それは芸術家・毛利陽出春が『生命』というテーマに込めたメッセージです。